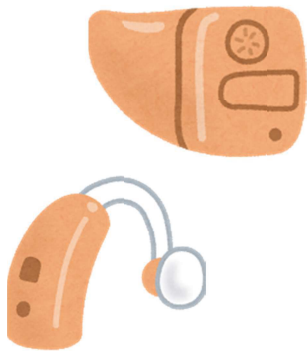


# 補聴器について

- ・「補聴器購入の流れと選ぶポイント」で、補聴器について知りましょう。
- ・補聴器は、精密機械です。使いこなすまでの慣れと定期的なメンテナンスが必要です。

音は耳で聞きますが、その音を「聞き取る」のは「脳」です。私たちの脳は、必要な音だけを拾い、不要と判断した音は気にならないように抑える力を持っています。長い間音が聞こえない状態にいると、補聴器をつけたとき、脳が雑音も会話の音声も同じように拾ってしまい、補聴器をつけるとうるさく感じてしまいます。まずは、脳を音が「聞こえる」状況に慣らしていく必要があります。補聴器を装用するという事は、脳に聴覚刺激を与えて脳をトレーニングすることにもなります。



## 補聴器購入の流れと選ぶポイント

### ①診断

聞こえが悪くなったと思ったら、耳鼻科で補聴器が必要か診断してもらいましょう。耳鼻科医の中でもさらに補聴器に特化した補聴器相談医がいます。日本耳鼻咽喉科学会ホームページに名簿がありますので参考にしてください。

日本耳鼻咽喉科学会ホームページ(<http://www.jibika.or.jp>)

### ②相談

耳鼻科に出張に来る補聴器販売店や認定補聴器専門店で相談してみましょ。認定補聴器専門店は公益財団法人テクノエイド協会のホームページで紹介されています。現在どんなことに困っているか、どういう音が聞こえないかなど、聞こえの状態や使用する目的など伝えるとともに、不安や疑問も相談しましょう。

公益財団法人テクノエイド協会ホームページ  
(<https://www5.techno-aids.or.jp>)

### ③試聴

補聴器は、使う人の聞こえの状態、聞こえ方の好み、使用目的などに合わせて緻密に調整・フィッティングします。納得いくまで根気よく試聴しましょう。

### ④調整

調整した補聴器を実際に試聴して微調整していきます。様々な場所・場面で試聴してみましょう。補聴器をつけても初めからはっきり聞こえるわけではありません。耳(脳)を慣れるまでに数週間から長いと3か月以上の期間が必要です。

### ⑤購入

自分の気に入った聞こえを手に入れられるよう補聴器をフィッティングしてもらえたら購入です。補聴器は身体障害者手帳を所持している場合、公的支援制度が使えます。

### ⑥フォローアップ

補聴器は、購入後も実生活での聞こえや環境による影響を確かめながら、さらに微調整をして仕上げていきます。定期的にメンテナンスし、気になることや不具合をその都度相談できるかなどを事前に確認しておきましょう。